



1 東ティモール通信始めます

私は10月からの2年間、青年海外協力隊の手工芸隊員として、東ティモールで活動します。海外生活の初めての私が東ティモールで見て感じたことを新鮮なうちに皆さんにお届けしたいと思い、この東ティモール通信を始めます。タイトルのDiakはいいね！を、Timor-Lesteは東ティモールを意味しています。

この活動レポートを通して、東ティモールの魅力や異文化について身近に感じてもらえれば幸いです。

2 東ティモールに到着して

10月3日に東ティモールの首都ディリに到着。東ティモールへはシンガポール経由で待ち時間も含め約14時間かかりました。東ティモールまでの行き方は、シンガポールの他にバリ島、オーストラリアのダーウィン経由があるようです。場所は日本の四国の真南に位置しているため、日本との時差はありません。

到着して、一番に感じたことはとても暑いこと。日差しが強く、日本の真夏日のようにジメジメしており、少し歩いただけで汗をかきます。

最初の3週間は首都ディリにあるDITという大学で現地語であるテトゥン語を学びます。その間は同期隊員4人とドミトリーで共同生活です。



同期隊員と東ティモール到着直後

2 東ティモールの食事

ワルーンと呼ばれる地元の食堂では約2米ドルで美味しいティモール料理を食べることができます。主食は米で、真ん中に米を置き、おかずが周りを囲むようにあります。メインの鳥肉はフライドチキンのように揚げたてで、新鮮、ジューシーでとても美味しいです。

その他にも、近くのショッピングモールではインドネシア料理、インドカレー、中華などもあり、どれもとても美味しく、食事の心配はなさそうです。

この地で2年間生活すると考えると、私にとって東ティモールは何か不思議な力によって惹きつけられた感じがするので、とてもワクワクしてきます。《第0号終わり》



出汁も美味しい
ミアヤム

学校近くのワルーンの
ランチ